

隨泉寺寺報

平成20年(2008年)5月号 第453号

082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

宗祖降誕会法座

講師 吳市 信楽寺 久保正乗師

講題 『念仏申さんと思い立つ心の起こるとき』

偽になったら もうええだ

なかなか偽に なれんぞのう 源左

妙好人・因幡の源左』なる人物は大正期から昭和初年にかけて因幡地方(鳥取県の一部)を中心に、生き仏として名を馳せた。源左の行き方こそ妙好人の典型であることを明らかにしてみせたのは民芸の創始者・柳宗悦(1889-1961)である。源左は天保13年(1842)年生まれ、昭和5年(1930)に亡くなっている。数え89歳という長命であった。本名は足利喜三郎。農業のほかに紙すきを生業(なりわい)とした。足利姓は明治になってからのこと。名も正しくは源左衛門。これを人は略して「源左」と呼び、自分もそれで通していた。

ホンモノを求める心は尊く、大切です。では「私こそホンモノ」「おれが正しい」と胸をはる私たちって、本当にホンマモノ?

凡夫の本性を偽モノと見抜き、「そのままよい」とおっしゃる如来様ですが、私たちは賢善精進の心を捨てられず、自分を偽者と認めません。源左さんはそれを言ったのです。

5月の法座予定

- 5月11日.....掃除 桑原
- 5月14日昼席午後1時より.....初参式・降誕会法座
- 5月14日夜席午後7時より.....出張法座 桑原集会所
- 5月15日朝席午前10時より.....降誕会法座 門信徒会総会 おとき
- 5月15日昼席午後1時より.....降誕会法座
- 6月2日午後6時より.....門信徒会本部役員会

初参式

初参式とは、子どもが生まれたことを喜び、お寺に初めてお参りして受ける式です。平成19年に生まれた子どもをいっしょに集ってもらい初参式をし、みんなに紹介し、お祝いします。

5月の親鸞聖人の御誕生日の法座で 午後1時より、当山隨泉寺の本堂、阿弥陀さまの尊前で、厳粛におこなわれます。

家族の皆さんが一緒にお寺にお参りして、尊い仏縁に会うことはすばらしいことです。初参式という仏縁に会って、それぞれのご家庭の中で、仏様の教えが中心となるような環境を作って頂き、子どもたちが仏の子として健やかに成長されますことを念じるものです。

初参式は、親や祖父母が仏縁の尊さを知っていただく、意義深い行事の1つです。お釈迦様は生まれるとすぐに七歩歩まれ、「天上天下唯我独尊」と宣言されたそうです。この言葉はこの世に人として生を受けたということは、一人一人が尊いかけがいのない“いのち”を持って生まれてきたということであり、その尊い“いのち”を、ほんとうに生かしていき行かねばならないということです。

その為には仏様の智慧に出会うていかねばなりません。仏の教えにあい、「ありがたい”いのち”であった。生まれてきてよかった。」といえる人生にしていきたいものだと思います。



門信徒会総会5月15日(木)朝席終了後～

門信徒会の総会を開催します。

この頃、毎年のように自死で亡くなる人が3万人を越えています。昔は日本は自死が少ないことが世界に誇れることでした。しかし今ではダントツで多いようです。なぜそんなことになったのでしょうか。理由や要因はいろいろ挙げられるでしょうが、一番よく言われていることは、家庭の崩壊と、地域社会の崩壊それと本当の意味での『抛りどころ』の消滅です。核家族というよりも、個人一人ひとりが生きている状況です。年寄りと離れて暮らすということだけではなく、親と子も別々に暮らしているというのも珍しくありません。苦しいことや、悲しいことがこの頃特別に出てきたわけではありません。苦しみは3000年前と同じように、生、老、病、死と人間関係、経済問題と人間の欲望と、お経の中に説かれているそのものです。その苦しみに、一人でたった一人で向き合わなければならないのです。だからこそ今、本当の抛りどころが必要なのです。仏様が必要なのです。また一緒になって泣いてくださる友が必要なのです。門信徒会はここに存在価値があるのです。

御礼

永代経懇志	金	貳拾萬円	大元恒夫・則夫殿	大元家先祖代々	特別永代経志として
永代経懇志	金	拾萬円	大元恒夫・則夫殿	故 大元 十一様	特別永代経志として
永代経懇志	金	拾萬円	大元恒夫・則夫殿	故 大元 夕力様	特別永代経志として
永代経懇志	金	拾萬円	大元恒夫・則夫殿	故 大元 淳子様	特別永代経志として

美しいやわらかい そのくせ「いのち」に みちあふれた新芽たち

花が 次々に終わっていったと思ったら
どの木も どの木も いっせいに 芽をふきはじめた
緑というよりも 白に近い
美しい やわらかい
そのくせ
いのちにみちあふれた
清潔な 木々の 芽たち
山のいのちが 木々を見つけて
己れのいのちを噴出させているような
いのち いっぱいの 新芽たち
いのち そのもののような
ういういしい その うす緑



母 百合子の七回忌に

「ぼくのおかあちゃん」

ぼくのお母さん、・・・お母さんと呼び換えたのは、結婚して子どもが出来て、父親になつた頃からと思う、やっぱりお母ちゃんのほうがええ。

お母ちゃんと呼ぶことにする、お母ちゃんは、小柄である。色白ではないが顔は小奇麗で化粧をすると一段とべっぴんになり、ぼくの心の中では、「ぼくのおかあちゃんが、世の中で一番のべっぴんじゃ」と、ひそかに思っていた、自慢のお母ちゃんじゃった。

「よしはるー・よしゃーるちゃんー・ごはんよ」

いまもはっきり記憶の中にある、チヨットかん高くて、なんとも心地よいあの声に、あのやさしい笑顔に、あのの温かいおかあちゃんの懷に抱かれて、シャクリながら泣きじゃくるぼくの背中を、やさしくさすってくれたお母ちゃん。

平成一四年三月に子宮癌でこの世を去った、享年七七歳であった、その人生の最後は県病院から自宅に帰り終末療養（治療）として三ヶ月間をゆつたりと過ごして、静かに最後を迎えることになるが、その数日前から、自分の人生を納得するかのよう「あれこれと楽しかつたこと嬉しかったことなどを思い出すがままに、そばに付き添って

いた邦子に言い聞かせたそうだ。

そして、三人の子どもに看取られながら、「お前たちを子どもとして授かり幸せじゃった」と言い残し、静かに息を引き取り、浄土に旅立った。

中略

【 あとがき 】

あくまで、私のお母ちゃんの記憶である。子供にとってお母ちゃんの笑顔はなによりも心のいやしで精神的な安定をもたらす、落ち込んだときにも、おかあちゃんの笑顔で元気を取り戻すことが出来た、特に学業の成績については「よしはるは やりやーできるのに」とやさしく笑顔で頭をさすってくれたことは、どんなに助かり、励まされ、何事も前向きに考えることが出来たように思う。

お母さんの7回忌に寄せて書かれた追想記の一部です

西川義治(長者原西 西川元氏次男)

浄土真宗の教章

このたび宗制が改正されました。平成の時代に沿った新しい宗制です。それに伴って御門主様が新しい教章を發布されました。

浄土真宗の教章（私の歩む道）

（宗名） 浄土真宗（じょうどしんしゅう）

（宗祖） 親鸞聖人（しんらんしょうにん）

ご誕生 1173年5月21日（承安3年4月1日）

ご往生 1263年1月16日（弘長2年11月28日）

（宗派） 浄土真宗本願寺派（じょうどしんしゅう ほんがんじは）

（本山） 龍谷山 本願寺（西本願寺）

（本尊） 阿弥陀如来（南無阿弥陀仏）

（聖典） 釈迦如来が説かれた浄土三部経 『仏説無量寿経』『仏説観無量寿経』『仏説阿弥陀経』・宗祖親鸞聖人が著述された主な聖教 『正信念仏偈』（『教行信証』行巻末の偈文） 『浄土和讃』『高僧和讃』『正像末和讃』中興の祖蓮如上人のお手紙 『御文章』

（教義） 阿弥陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還って人々を教化する。

（生活） 親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如来のみ心を聞き、念仏を称えつつ、つねにわが身をふりかえり、慚愧と歡喜のうちに、現世祈禱などにたよることなく、御恩報謝の生活を送る。

（宗門） この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申す人々の集う同朋教団であり、人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝える教団である。それによって、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する